

県民に信頼され、心あたたまる病院をめざします

福井県立病院広報誌 コンパス



53号
2019 September

Compass



栄養管理室長

小寺 由美 (こでら ゆみ)

■専門分野
管理栄養士
NST 専門療法士

患者さんに寄り添う栄養管理を目指して

栄養管理室では、当院における様々な診療に対し、より多くの治療効果が得られるよう、患者さん一人ひとりの栄養管理に努めています。日々患者さんに寄り添って栄養を考え、その方にとっての最適な栄養と食事を提供することを目指しています。

私たち管理栄養士は、医師や他の医療従事者と共同で入院患者さんの栄養管理に携わり、また、NST(栄養サポートチーム)や緩和ケアチームなど様々な多職種連携チームの一員として、栄養状態の維持・改善に取り組んでいます。退院時には切れ目のない栄養管理ができるよう転院先に情報を提供しています。

近年では糖尿病や腎臓病、がん、低栄養などの外来栄養食事指導に力を入れており、地域医療連携の患者さんには、当院の受診日に合わせて栄養指導を行っています。

当室は管理栄養士の他に調理師や事務員、給食委託スタッフを含め100名余りの職員が日々情報共有し、安全安心で喜ばれる治療食の提供が行えるよう努力しています。

これからも医療の進歩や社会の変化、それらに伴う患者さんの声に対応できるようさらに研鑽していきたいと考えています。

今後とも、当院の食事内容などに忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

2019.10
12

主なイベント・セミナーのご案内

- 10月 6日(日) 休日乳がん検診 対象/市町発行の受診券やクーポンをお持ちの方
- 10月 8日(火) 福井県立病院落語会 対象/一般県民 入場無料 於/当院3階講堂
- 10月13日(日) 市民公開講座 県立図書館で学ぶ最新の肺がん治療 対象/一般県民 於/県立図書館
- 10月17日(木) 認定看護師研修会(救急看護) 対象/看護師等
- 10月31日(木) 歯科講演会 対象/地域医療連携医
- 10月のボランティアコンサート開催日 対象/一般県民 於/当院1階エントランスホール
1日(月) 3日(木) 11日(金) 15日(火) 17日(木) 25日(金) 31日(木)
- 11月17日(日) 休日乳がん検診 対象/市町発行の受診券やクーポンをお持ちの方
- 11月21日(木) 認定看護師研修会(認知症看護) 対象/看護師等
- 11月28日(木) 地域医療連携医講演会・交流会 対象/地域医療連携医
- 11月のボランティアコンサート開催日 対象/一般県民 於/当院1階エントランスホール
8日(金) 12日(火) 13日(水) 21日(木) 22日(金) 28日(木)
- 12月18日(水) 認定看護師研修会(精神科看護) 対象/看護師等
- 12月のボランティアコンサート開催日 対象/一般県民 於/当院1階エントランスホール
5日(木) 6日(金) 13日(金) 19日(木) 23日(月) 27日(金)

▶お問い合わせ先 ☎0776-54-5151(代表) <http://fph.pref.fukui.lg.jp>

Index

- 特集 総合病院こころの医療センター
再編・高機能化とコミュニティ精神医療への展開
—「抱える」病院完結型医療から「つなぐ」地域包括的医療へ—
- P2~
- P4 ドクターにききましたっ!
先進医療(多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術)実施施設に認定 / 病院NEWS
- P5 県立病院チーム医療
ICT感染対策チームの活動
- P6~ 地域医療連携通信/講演会・交流会のご案内
- 裏表紙 教えて看護師さん
「心肺蘇生法」ちょこっと解説

Compass

この広報誌が「皆様と当院の輪(和)を描くものとなり、また皆様にとって有用な情報を提供することで、「今後の道しるべ」となれるよう思いを込めて「コンパス」と名付けました。

特集

総合病院こころの医療センター 再編・高機能化とコミュニティ精神医療への展開

「抱える」病院完結型医療から「つなぐ」地域包括的医療へ



東4精神科救急合併症病棟入退院カンファレンス

現代の複雑なストレス・高齢化社会において、精神疾患の病態は多様化し拡がり、がんなどと並ぶ5大疾病に指定されています。近年、救急患者の10%程度は自殺企図やうつ病・認知症など精神科関連といわれ、身体と精神の両方の傷病を併せ持つ緊急・重症な患者も多く、その対策は喫緊の課題です。

これら精神医療変革の潮流を見据えて、2018年1月に組織再編し（図1）、全国10番目中部地方初の精神科救急合併症病棟を新設しました。既存の精神科救急病棟と合わせた2つの高機能病棟は全国2番目という先駆的な取り組みです。

稀少な救命救急センター併設の総合病院精神科の特性や強みを活かして、心身両面からの高度急性期医療を重点的に担っています。90日以内の早期退院・地域移行を原則とするこれら両病棟を支える、重度難治性病棟や地域包括支援病棟（治療抵抗性うつ病や統合失調症などを対象に院内身体科との連携でクロザピンや修正型電気痙攣療法を推進）、および退院後まだ不安定な患者を地域で支える訪問支援体制（訪問看護師の専従8名体制など）やデイケアを強化しました。

これらの導入にはクライシスプランや多職種間情報共有シート（図2）を駆使して、急性期入院治療から退院後の地域生活へと切れ目のない個別的な支援体制でチーム医療を実践しています。

図1 福井県立病院こころの医療センターでは、稀少な救命救急センター併設の有床総合病院精神科として、心身両面から切れ目のない高度急性期医療を展開





こころの医療センター長

村田 哲人 (むらた てつひと)

■専門分野

精神科一般／気分障害／精神薬理／
老年精神医学

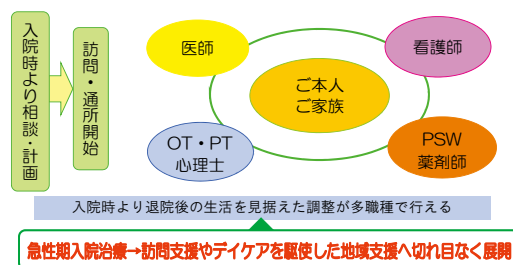
■所属学会

精神保健指定医（厚生労働省）
精神保健判定医（医療観察法）
日本精神神経学会専門医・指導医
日本総合病院精神医学会専門医・指導医
日本老年精神医学会専門医・指導医

■ひとこと

県立病院の敷地内には、かつて丘陵地（平岡山）であった痕跡が散見されます。幼少の頃、この近隣で生まれ育った私にとって、その小高い山の緩やかな起伏がそり滑りや鬼ごっこの格好の遊び場でした。半世紀近い時空を超えて、この場所で働くことになるとは夢にも思いませんでした。地元で生産されたものを地元で消費する“地産地消”が健康に一番良いと最近よく聞きますが、その言葉にあやかって、この福井の地に根ざしたコミュニティ精神医療のさらなる推進に向けて尽力して参ります。

図2 精神科訪問支援・ディケア導入の情報共有シート
～多職種・各部門連携のためのツール～



多職種間情報共有シート		
患者氏名:	年齢:	病名:
同居者の有無や家族の支援等:		
身体疾患:		
I. 疾患管理に関する課題		
内服管理や家族の協力/過去の退院後状況		
ストレス耐性や病状不安定さ/クライシスプラン		
II. 本人を取り巻く環境		
III. ADL、IADL のレベル		
IV. 地域支援の目的設定		
V. 退院前訪問時の状況		
VI. 地域での支援者の調整		

再編から1年間の2つの高機能病棟への新入院患者数は、東3救急病棟…269人、東4救急合併症病棟…218人の計487人と、再編前に比べて約10%増加しました。

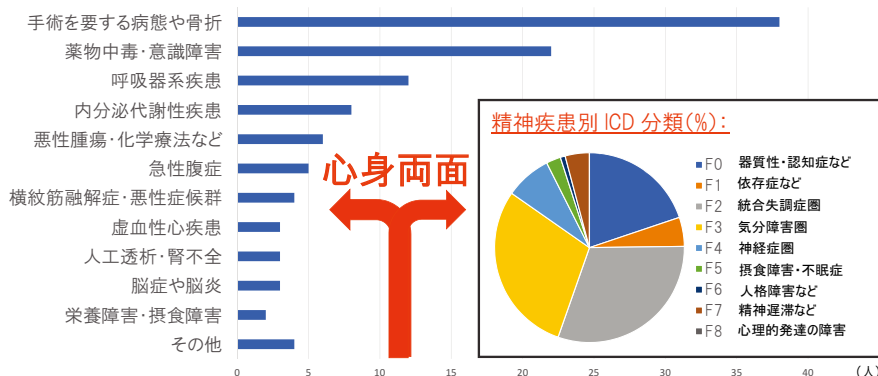
入院経路では、救命救急センターからの入院（東3…31%・東4…27%）、精神科病院・診療所から転入（東3…16%・東4…31%）、一般病院・

診療所から転入（東3…18%・東4…14%）、院内他科から転科（東3…5%・東4…19%）が上位を占め、救急や心身両面からの多様なニーズに応える地域連携拠点としての役割・機能が示唆されました。

退院経路では、自宅退院（東3…86%・東4…58%）、施設退院や他病院転院（東3…12%・東4…35%）、院内他科へ転科（東3…3%・東4…4%）の順でした。東4への新入院患者218名中108名（50%）が広汎な領域に及ぶ重症な身体合併症患者であり（図3下部に示した主要3つの入院ルートを介して、手術を要する病態や骨折…38人、薬物中毒・意識障害…22人、呼吸器疾患…12人の順で、その精神疾患別分類は統合失調症圏（31%）、気分障害圏（29%）、器質性・認知症（20%）の順でした（図3）。これらまさに心身両面からの高度急性期医療を円滑なベッドコントロール下で実践するには、急性期の治療は当院で行い、急性期を過ぎた治療は地域で担って頂く機能分化・医療連携が必要になります。当センターでは入院治療の全般的な基準を設け、手術や緊急措置などを要する身体合併症やハード救

図3 東4救急合併症病棟開設後1年間の新入院患者 218名、うち108名(50%)が合併症ユニット要件を満たす重症身体合併症患者、その108名の身体・精神疾患別分類

身体疾患別入院患者数:



対象入院患者の主要な3つのルート : いずれもまさに心身両面からの高度急性期医療:

1. 救命救急センターから: ER搬入された自殺企図患者や精神科ハード救急など
2. 一般病院・院内身体科から: 身体科では管理困難な重症な精神症状をもつ患者
3. 精神科の病院や診療所・精神科救急情報センターから: 重症な身体疾患をもつ患者

急などより重症な緊急性の高い事例を優先的に入院して頂いています。稀少な救命救急センター併設の総合病院精神科の特性を活かし（コミュニティ医療の連携拠点として脳・心と心身をつなぐ）、さらなる多職種協働での精神科急性期チーム医療の強化・推進に向けて、皆様のご支援・ご紹介と緊密な連携を心よりお願い申し上げます。



眼科主任医長
宮下 洋亮 (みやした ひろあき)

■専門分野
眼科一般／網膜硝子体疾患

■所属学会・資格
日本眼科学会専門医

■ひとこと
目の手術は局所麻酔のことが多く、痛くないように優しい手術を心がけています。休日はバイクでぶらりと出かけて気分転換をしています。最近は林道めぐりにはまっています。

シリーズ

ドクターに
ききましたっ!



白内障とは目の中の水晶体（レンズ）が白く濁り、少しずつ見えにくくなる病気です。手術によって濁った水晶体を取り出し、かわりに人工の水晶体（眼内レンズ）を移植することで視力の回復が期待されます。

眼内レンズには、単焦点眼内レンズと多焦点眼内レンズの2種類があります。通常の白内障手術で移植される単焦点眼内レンズは、ピントの合う位置が遠くか近くのどちらかに限られますので、術後には見るものの距離に合わせた眼鏡が必要で、これに対して多焦点眼内レンズは、近くと遠くの両方にピントが合うため、眼鏡の使用頻度を減らすことができます。ただし網膜や視神経などに他疾患が合併している方には、使用できないことがあります。

先進医療（多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術）

実施施設に認定

多焦点眼内レンズは、現在保険診療が行えませんが、今回当院は先進医療の実施施設に認定されました。このことにより、手術前後の診療や検査などが保険適応となり患者さんの医療費の負担を減らすことにつながっています。

眼内レンズには「単焦点」と「多焦点」があります



NEWS

最新情報

読響ハートフルコンサート福井を開催

がん患者さんの生活の質向上の一環として弦楽四重奏を楽しんでもらう「読響ハートフルコンサート福井」が、当院1階エントランスホールにおいて9月13日に開催され、患者さんやご家族など約150人の方々が美しい音色に聞き入りました。

このコンサートは、がん患者さんやそのご家族への支援を行っている「正力厚生会」と「公益財団法人読売日本交響楽団」の共同で、全国のがん診療連携拠点病院などで開催されています。



～受ける怖さより、受けない怖さ～

日曜日に当院で乳がん検診を行います

40歳以上の女性の方で、お住いの市町発行の受診券やクーポン券をお持ちの方が対象です。

検診内容は、女性放射線技師によるマンモグラフィと、乳腺専門医による乳房視触診です。費用は、お住いの市町や年齢によって異なり、無料～1,000円までです。

人数に限りがございます。ご予約はお早めに。

10月6日（日）午前8時30分～11時
11月17日（日）午前8時30分～11時



母子医療センター長
野坂 和彦 (のさか かずひこ)

■専門分野
消化器疾患／心身症

■所属学会
日本小児科学会専門医
日本感染症学会

■ひとこと
私は自治医大卒業で、いわゆる医療過疎地などでの勤務経験があります。20代のころでかなり昔のことになります。そのことも踏まえて医療の質や疾病構造の変化は非常に大きいことが実感されます。趣味は読書と野菜作りといったところで極めて無趣味です。野菜作りで戸惑うのは土いじりをするることによる手の汚れです。土壌の中には有害、無害を問わず、多くの微生物が生息しており、手洗いなどに十分気を配っているつもりですが、常に気になります。

ICT(感染対策チーム)とはインフェクションコントロールチーム(Infection Control Team)の略称で、院内で起こるさまざまな感染症から患者・家族、職員の安全を守るために活動を行う組織です。福井県立病院のICTは平成14年4月に院内感染予防対策委員会の下部組織として結成され、医師7名、看護師12名、検査技師3名、薬剤師3名、事務1名の26名で構成されています。

主な活動内容は医療関連感染症対策です。MRSA(メチシリン耐性ブドウ球菌)をはじめESBL産生菌、クロストリジオイデス、デフィシル、疥癬などの院内感染対策を目的としたICTによる病棟ラウンドや、インフルエンザ、RSウイルス、ノロウイルスなどの国内、県内の流行状況を把握して、院内での発生状況をモニターし、院内での感染制御などを行います。また最近話題になることの多い風疹をはじめ麻疹、水痘、ムンプスの病院職員の抗体の保有状況を調べ、予防接種の勧告を行います。

そのほかの活動として全職員対象の院内研修、他の医療機関のICTとの様々な情報交換や連絡のための会議、院内の感染防止対策マニュアルの改訂などがあります。

最近では、日本国内および全世界的に注目されている感染に関連した課題にも取り組んでいます。

まず、院内感染が発生する場面に注目し、手術部位感染、カテーテル関連血流感染症、人工呼吸器関連イベント、カテーテル関連尿路感染症のサーベイランスと対策を行っています。加えて院内感染を起こす細菌に関して現在国を挙げて取り組まれている薬剤耐性AMR(Antimicrobial Resistance)対策を行っています。これには院内で検出される細菌の薬剤感受性の把握や抗菌薬の使用状況調査を行い、抗菌薬の適正な使用が重要です。

ICT感染対策チームの活動



ICT カンファレンス

「お申込み先・お問い合わせ先」
当院 健康診断センター
☎ 0776-57-2920 平日9時～17時
がん征圧月間啓発行事を開催

毎年9月1日からの1か月間

は「がんの正しい予防知識や早期発見・早期治療の重要性」などを広く伝えるための啓発活動が行われるがん征圧月間です。当院でも、1階エントランスホールにおいて健康診断センター長のミニ講座「がんは2人に1人、早く見つけて早く治そう」やパネル展示などを行います。

また、10月13日(日)には、当院陽子線がんセンターが主催する市民公開講座「県立図書館で学ぶ最新の肺がん治療」が開催されます。詳細はチラシをご覧ください。



ミニ講座

定員 200名
参加費 無料

市民公開講座

県立図書館で学ぶ最新の肺がん治療

県民のみならずが対象です。

本講演会は、がんと向き合っている患者さんやご家族の方はもちろん、広く一般の方を対象としています。

令和元年
10月13日(日) 福井県立図書館多目的ホール
13:30～16:00(開場13:00)

市民公開講座プログラム(敬称略)

講演1
肺がんに対する最新の内科治療
～抗がん剤、分子標的薬、免疫療法を中心に～

講師 石塚 全

福井大学医学部附属病院内科学第3科 教授
福井大学医学部附属病院呼吸器内科 教授

講演2
肺がんに対する最新の陽子線治療
～福井県立病院は陽子線とX線の二刀流でがんを立ち向かう～

講師 玉村 裕保

福井県立病院
陽子線がん治療センター センター長

お問い合わせ・お申し込み
福井県立病院 総務管理課
〒910-8526 福井市四ツ井2丁目8-1 ☎0776-54-5151(内線2047)
FAX: 0776-57-2945 E-mail: kenbyokouza@pref.fukui.lg.jp
参加ご希望の方は裏面のお申込方法をご覧ください。
主催: 福井県立病院 陽子線がん治療センター 後援: 福井大学医学部附属病院



医療法人 清風会 吉田医院

院長 ^{よしだ} 吉田 ^{せいじ} 清二 先生

副院長 まゆみ 先生



「治す」から「支える」医療、介護を目指して

当院では、一般診療、乳児検診（小児科専門医）、胃・大腸内視鏡健診（日本消化器科内視鏡専門医）、リハビリテーション（外科専門医、整形外科専門医、理学療法士）、個人健診、企業健診、認知症健診（認知症サポート医）等に医療法人清風会の基本方針「目配り・気配り・心配り」をモットーの下、豊富な経験と親切的対応で、医療介護診療に当たっています。

又、24時間対応の福井県立病院を始め、各基幹病院とも密に連携をとり共同診療行い、医療介護を行っております。

皆様が住み慣れた地域で健康で自立した生活が送れます様、「治す」から「支える」医療、介護を目指しています。

医療、介護の事で気になる事、不安な事がある方は是非ご来院下さい。



住所：福井市順化1-8-1
TEL：0776 (22) 1233 (代)
診療科：消化器外科、小児科、内科、
整形外科、リハビリテーション科
診療時間：8:30~12:30/14:00~18:00
休診日：日曜、祝日

(医) 吉田医院 居宅支援センター

TEL：0776 (22) 1337

サービス付高齢者住宅 清風の杜

TEL：0776 (22) 1335

高沢内科医院

院長 ^{たかさわ} 高澤 ^{ようすけ} 洋介 先生



健康寿命を延ばすお手伝いを

開院から40余年、一般内科や循環器、糖尿病専門医のいる病院として地域の方々とともに歩んできました。特に現代の国民病である糖尿病は、生活様式が多様化している昨今、治療法も個々に合わせたものでなければなりません。

当院では医師3名、看護師9名（非常勤含）、ヘルパー4名、管理栄養士2名がチームとなり、各種検査と併せてお一人おひとりに合わせた治療法をご提案させていただいております。専属の栄養士による食事指導から専門資格を有する看護師によるフットケア、療養入院、訪問診療まで対応可能です。

循環器疾患や糖尿病は何気ない症状が命を脅かすこともあります。長い人生、健康で楽しく生きていただくため、健康寿命を延ばすお手伝いをさせていただければと思います。

安心して治療が進められるよう、些細なことでもご相談ください。



住所：福井市春日町236-1
TEL：0776 (35) 0100
診療科：内科、循環器内科、糖尿病内科
診療時間：8:30~13:00/14:00~18:00
± 8:30~13:00
休診日：日曜、祝日
URL: <http://www.takazawa-medical.jp/about/>

みわ歯科クリニック

院長 た か い 高井 み わ 三和 先生



笑顔の多い人生を、口元からサポートします

当院は県立病院北のハーツ志比口店内にて開院しています。皆様の暮らしに寄りそえるクリニックを目指し、治療はもちろん歯のお手入れや予防まで、お口に関するご相談を幅広くお受けしております。

歯のトラブルはうまく食べられない、発音が悪くなる、表情が乏しくなるなど、生活の質に影響します。また最近では歯周病と全身の病気の関わりや、口の機能低下による低栄養・認知症の危険性も注目されており、健康寿命を延ばすためにも歯と口のケアが大切です。

専門性の高い検査や治療、全身状態の管理が必要なときは速やかに連携を取り、安心・安全な治療を心がけております。

いつまでもおいしく食べて、しゃべって、元気に過ごす。口元からのお手伝いをし、笑顔で毎日を送っていただけるよう、これからも精一杯取り組んでいきます。お気軽にご相談ください。



住所：福井市志比口2-11-13 ハーツ志比口2F
TEL：0776 (53) 3845
診療科：一般歯科、小児歯科、予防歯科、矯正、
審美歯科、歯科口腔外科、訪問診療
診療時間：9:00～13:00/14:00～18:00
± 9:00～13:00/14:00～17:00
休診日：日曜、祝日、水曜（訪問診療日※）
※ 祝日のある週の水曜日は外来診療を実施
URL：www.miwa-dental.info

講演会・交流会のご案内

地域医療
連携医交流会

日時 11月28日(木) 18:30～21:00

場所 ホテルフジタ福井 3階 天山の間

内容 講演会 18:30～19:20

交流会 19:30～21:00

※詳細は後日改めてご連絡させていただきます。

地域医療・
看護・介護
連携交流会

日時 10月23日(水) 18:00～19:00

場所 県立病院 3階講堂

演題 病気の進行により膀胱直腸障害、両下肢運動
知覚障害を併発した状態で、嶺南での在宅療
養を維持するための退院支援

歯科講演会

日時 10月31日(木) 19:00～20:00

場所 県立病院 3階講堂

演題 病院歯科口腔外科の日常から 2019

— 口腔腫瘍の診断・治療の要点 舌癌を中心に —



皆様のご参加を
心よりお待ちしております。

教えて 看護師さん vol.6



救命救急センター 副看護師長
救急看護認定看護師

まえかわ まゆみ
前川 真由美

「心肺蘇生法」ちよこつと解説

心臓病による死亡原因の多くは、病院の外での「心臓突然死」です。日本では、毎年6万人を超える人が「心臓突然死」で亡くなっています。この「心臓突然死」は、誰でもできる救命処置によって命を救うことができます。

誰でもできる救命処置

救命処置が必要なことが、3つあります。それは、①119番通報 ②胸骨圧迫（心臓マッサージ） ③電気ショック（AED）です。



HAL 大阪 CG デザイン科作成

①119番通報

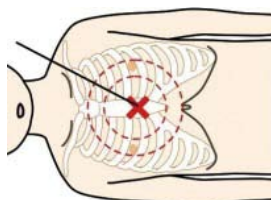
まず、大きな声で応援を呼び、AEDを要請します。119番通報時には、①救急か消防か②場所③年齢・性別④何があったのかを伝えます。できれば、かかりつけ医の診察券やおくすり手帳の準備をしておく役立ちます。



胸骨圧迫を行うポイント

押す場所	胸の真ん中（胸骨の下半分） 図1
「強く」	胸が5cm以上6cm未満沈むまで押すこと
「速く」	1分間あたり100～120回のテンポ アンパンマンのマーチ♪など
「絶え間なく」	中断せずにしっかり続けること

図1



②胸骨圧迫（心臓マッサージ）
倒れている人を発見したら、反応がなく正常な呼吸がない場合には、ただちに「強く、速く、絶え間なく」胸骨圧迫を行うことがポイントです。

③電気ショック（AED）

AEDとは「自動体外式除細動器」のことで、様々な種類があります。が、どれも音声や表示に従えば、どなたでも簡単に使用することが出来ます。突然心停止を起こして倒れた人に、電気ショックが必要かどうかを判定し、直ちに電気ショックを与えることで、倒れた人の命を救うことができる医療機器です。現在日本では、AEDが普及しているにもかかわらず、命を救える可能性のある人たちの約3%にしか実際にAEDが使用されていません。

胸骨圧迫（心臓マッサージ）や電気ショック（AED）を実際に体験してみたい方は、この機会に心肺蘇生法の講習会を受けてみませんか。講習会の情報については、最寄りの市町村のホームページをご覧ください。



地域医療連携推進室

TEL (0776)57-2900
FAX (0776)57-2901

救命救急センター

TEL (0776)57-2990 FAX(0776)57-2991

電話対応 月～金/8:30～18:00 土(紹介予約受付)/8:30～12:30
祝日および年末年始(12/29～1/3)を除く



HP <http://fph.pref.fukui.lg.jp/>

スマートフォンからは
こちら→



発行

福井県立病院 情報発信力強化委員会

〒910-8526 福井市四ツ井2丁目8-1 TEL (0776)54-5151(代) FAX(0776)57-2945